

(様式第7号)

令和2年度 年度評価表

1 指定管理施設の概要

施設名	舞鶴市大丹生コミュニティセンター		
指定管理者	西大浦産業株式会社		
設置目的	市民の文化体育活動を促進し、もって豊かな地域社会の形成に寄与するため。		
選定方法	公募・非公募	指定期間	平成31年4月1日～令和3年3月31日
所管課	市民文化環境部人権啓発・地域づくり室地域づくり支援課		

2 利用状況等の推移

	令和元年度	令和2年度	年度	年度	年度
利用者数(人)	7,171	4,889			
利用料金(円)	564,124	424,250			
指定管理料(円)	8,802,000	9,023,300			

3 成果(数値)目標の達成状況

成果(数値)目標の種類	市設定目標	年間目標(A)	実績(B)	達成率(B/A)
施設の利用者数	8,500人	8,500人	4,889人	58%

4 収支状況

収入		支出	
利用料金	424,250	人件費	3,710,986
指定管理料	9,023,300	維持管理費	4,294,448
事業収入		事業費	193,925
その他	250,032	その他	411,361
合計	9,697,582	合計	8,610,720
差額			1,086,862

5 所管課による評価

項目	評価	コメント
(1) 事業計画の達成度		
成果(数値)目標を達成しているか	△	コロナ禍での影響で、前年度から利用者数が大幅に減少したのは残念だった。しかし、継続した地道なPR活動や、大浦3施設(ふるるファーム、エムズデリ、大丹生コミセン)の周遊割引企画も継続して行うなど3施設活性化に向けた取組をするなど努力している。単独事業でもスタンプラリー、ガチャガチャ特典サービスで利用者の館への興味を取り込んでいることは、今後の利用増大につながる取組みと思われる。また、吹奏楽団の練習場所としてアリーナを提供し、大浦ミニコンサートを企画に繋げるなどスポーツ施設の枠に捉われない利用方法を取り入れるなど、次年度以降の事業に期待が持てるところである。
施設の将来的な構想(ビジョン)に沿った運営を行ったか	○	地区外からの利用者の取り込みも増加しており、地域住民交流のための拠点施設として利用されている。
施設の果たすべき使命(ミッション)を果たしたか	○	住民に広く開放され、文化体育活動等の促進のために利用されている。
市指定事業、自主事業は計画どおり行われたか	○	コロナ禍により中止された事業もあるが、状況に応じて計画変更するなど臨機応変に実施されている。
利用者数の増加、利用率の上昇などが図られたか	△	コロナ禍による影響が響き、前年度より利用者が減少した。
(2) 利用者の満足度		
利用者の満足が得られたか	○	施設利用者からは、清掃が行き届き、清潔感ある施設を保ち、危険個所の表示をするなど、利用者からも好感が持てる感想が寄せられている。
利用者の意見・要望の把握は適切に行われたか	○	アンケート・聞き取りを実施している。
利用者の要望・苦情への対応は十分に行われたか	◎	利用者の要望・苦情を聞き取り、利用者の安全確保、アリーナ競技別のラインの維持、虫等の進入を防ぐ網戸設置など対応を実施している。

(3) 管理運営の効率性		
経費の節減が図られたか	○	節電・節水に努め、自前で清掃及び軽補修等できることは外注せず経費削減に取り組んでいる。
委託費、物品の購入費等の経費が最小となるような取組が行われたか	○	業務委託の複数年契約による割引利用を行うなど経費削減に努めている。
収入増加のための取組が行われたか	◎	大浦3施設（ふるるファーム、エムズデリ、大丹生コミセン）の指定管理者間で連携した事業の企画を積極的に進めている。また、スタンプラリー、ガチャガチャサービスの実施、さらに吹奏楽団の練習場所としてアリーナを提供し大浦ミニコンサートに繋げるなど利用者増のための企画を積極的に実施している。
(4) 適正な管理運営		
適切な人員配置が行われたか	○	適切に行われていると思われる。
職員の能力向上のための取組が行われたか	○	研修実施や職員に情報の共有化を図るとともに、それぞれ問題意識を持って仕事に取り組んでいる。
施設の平等な利用が行われたか	○	適切に行われていた。
個人情報の管理が適切に行われたか	○	適切に行われていた。
情報の公開が適切に行われたか	○	適切に行われていた。
収支状況や会計処理が適切か	○	適切に行われていた。
施設・設備の法定点検及び保守が適切に行われたか	○	適切に行われていた。
備品等の管理が適切に行われたか	◎	毎回、点検管理、清掃等は丁寧に施され利用者にも好評を得ている。
危機管理、安全対策などは十分か	○	速やかな危険個所の排除、修繕を行い、また、コロナ感染対策のためのこまめな消毒、検温等利用者が安全に利用できるよう安全対策に取り組んでいる。
法令等を遵守し、適正な管理が行われたか	○	適正に行われていた。
(5) その他コメント		
サービス向上		定期的な館内清掃を実施し、新型コロナウイルス対策も十分実施しながら、常に清潔で好感が持てる施設となるよう努力し、利用者からも良い評価を得られている。 新たな利用者獲得のため、大浦3施設（ふるるファーム、エムズデリ、大丹生コミセン）の指定管理者で連携した事業の企画を継続して進め、また、吹奏楽団と連携し大浦ミニコンサートの企画を始めるなど、施設間はもちろん、大浦地区の活性化を目指して実施、企画されている。 コロナ禍の影響で、前年度から利用者が減少したことは残念であったが、上記のような新たな取り組みを始め、利用者獲得につながるサービス向上策を次々と考案されているあたりは次年度の利用率向上への期待感が持てる。
経費削減		常日頃から節電・節水に努め、管理業務を委託する時は、複数年で契約し割引を得ることができるよう経費削減対策を実施している。 また、メンテナンス、清掃及び軽補修等は、自前でできるところは実施するなど節減努力が見られた。
施設の維持・管理		コロナ禍においてこそ、定期的な施設点検を入念に実施し、備品等の安全確認と危険個所を発見した場合は、早めの修繕等、感染対策が実施されている。 緊急連絡票を作成することで、関係機関、施設間で連絡共有を図れる体制がとられている。

※ (1)から(4)までにおける評価区分

- ◎(優)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準より優れた内容である。
- (良)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準に沿った内容である。
- △(可)： 協定書、仕様書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- ×(不可)： 協定書、仕様書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な内容である。

## 6 選定委員会による評価

評価点	3.66点	※左記の点数は、各委員が次の5段階評価を行い、その点数を平均したものです。 5：良い、4：やや良い、3：普通、2：やや悪い、1：悪い
総評	市内中心部から遠く不便であるが、その割に利用者は一定数あり、努力をしている。 利用者数が減少している中、黒字を確保している。 さまざまな事業を模索している様子がよく分かる。	

《参考》 過年度の評価点

令和元年度	年度	年度	年度	平均
3.5点				3.5点